

# 日刊 動労千葉

1988.6.30

No.2847

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

## 九州を訪れて、物販上映オルグ報告

幕張支部  
丁生

五日間の九州オルグ（物販・上映）はあっという間に終わった。確かにオルグスケジュー  
ルはハードだったが、疲れとか消耗感はなく無い。むしろ遠い九州の地で日夜奮闘してい  
る多くの仲間との交流から得た感動は今になっても決してうすれていない。今回のオルグ  
の中心は学校関係であったが、あい間をぬって数ヶ所の清算事業団の仲間を激励訪問、国  
労の幹部とも交流する機会にめぐまれた。卒直に言って、オルグに出かけたというより自  
らがオルグされてきたというのが感想である。

「いつ来るか、待ち望んでいた」  
（A小分会）

小中学校の先生はとにかく忙しい、そのあい間  
をぬっての対話である。短時間でもこちらが真剣  
にかかわれば相手にも通じるし、相手の誠意や好  
意も伝ってくる。私がおどろいたのは、行く先々  
で動労千葉について良く知っていることと、体か  
ら「良く来てくれた」「頑張ってる」といった心の  
こもった激励を受けたことである。

ある中学の分会長は、動労千葉支援の理由とし  
て「今、教育（現場）は大変な分れ道に立ってい  
る。ここでなんとかせねばという気持は大きい、  
だからごく自然に闘う動労千葉に心がひかれる」  
と心境を語ってくれた。

又、A小分会長は「以前、君達のことは本で偶  
然知り感動していた。いつか来てくれると待ち望  
んでいた」と熱烈に歓迎される。そして、今でも  
ひとときわ印象に残っているのは、農村地帯の小さ  
な学校を訪ねたとき、分会長が注文書を申し訳な  
さそうに見せて、「まだ数名ですが継続してやり  
ます。小さな分会ですが一生懸命応援します」と  
言われたときは、本当に頭の下がる思いでいっば  
いになった。

それぞれを紙面で紹介できないのが残念である。

### 北九州清算事業団の仲間たちの 怒りと誇りにふれて！

十六日、「事業団」N所を訪ねた。そこにはお  
よそ一五〇名ぐらいの国労の仲間たちが「収容」  
されている。詰所に入ってビックリ！二十代か  
ら高令者まで全員が腕章をつけ集会を開いている。  
私語などどこにもない、全員が聞きいつている。  
戦闘的な雰囲気詰所に満ちあふれているのだ。

物販目標  
一五〇〇〇円  
を貫徹しよう

対応してくれた役員によると「十六日は権利デ  
ーということと全員の総行動日、夜は地域へのビ  
ラ入れも貫徹している」「このまま二年後に首な  
らなくても動労（革マル）には吐き気が出る、絶対許さな  
い」と激しい怒りを表わしていた。全国五千名の  
事業団の仲間は将来への不安、生活面での不自由  
と闘いそれをのりこえ、当局・鉄道労連と激しく  
対決し、日々を決戦的に生き、闘いつづけている  
のだ。新ためて仲間の原地原職奪還を決意した。

興奮さめやらぬその足で、国労幹部Tさんを訪  
問する。Tさんは開口一番、「私は動労千葉のフ  
アンです」と切り出されたのにはビックリ！さ  
っそく委員長室にまねかれ話をうかがった。「国  
労が分割・民営化粉砕で一発もストをうてなかつ  
たことを悔む。君達とは路線は違うが学ぶべきこ  
とは多い。事業団の仲間と家族の生活と誇りにか  
けて、反撃に転じねば！」と四〇分にわたり熱っ  
ぽく語ってくれた。最後に連帯と勝利を誓いあい  
固い握手を交わし事務所を後にした。

### 六・一九、上映会（博多）大成功

五日間のオルグの節目として、十九日、第三報  
の上映会を開催し、小雨降る中、多数が集集し成  
功をかちとった。宿泊所まで提供してくれた民間  
の仲間の顔、事業団の中で闘う若き国労の仲間達  
の真剣なまなざし、学生、主婦と各階層の人々が  
集った。

オルグを通し確信できたことは、いかに一部ダ  
ラ幹どもが全民労連だ、連合だと叫んでも、決し  
てそれを許さない労働者、人民の怒りと活性化は  
確実に高まっていることを、九州の地においても  
全身で感じる事ができたということである。  
全国オルグはのべ数百をこえて継続中である。  
これからも要請があれば積極的に応じ、頑張る決  
意である。